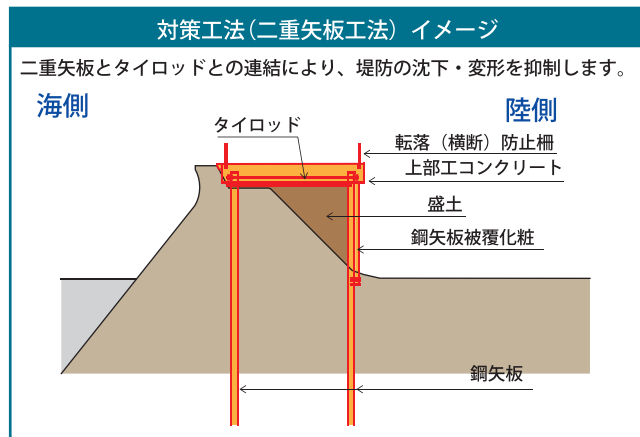
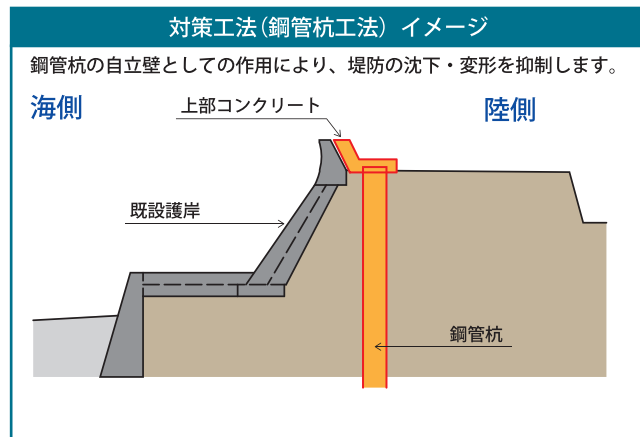
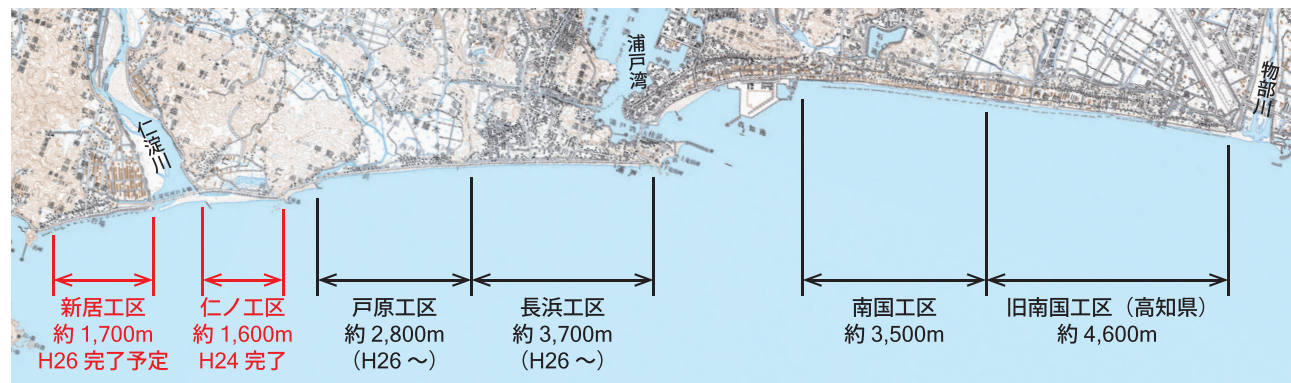


これまでの堤防耐震・液状化対策事業状況



鋼管杭施工状況 (新居工区)



二重矢板施工状況 (新居工区)



地域の皆様の安全・安心な生活を守ります

直轄高知海岸 長浜・戸原工区 堤防耐震・液状化対策事業



国土交通省 四国地方整備局 高知河川国道事務所
 〒780-8023 高知県高知市六泉寺町 96 番地 7
 TEL 088-833-0111(代)
 URL <http://www.skr.mlit.go.jp/kochi/>
 平成 27 年 1 月

国土交通省 四国地方整備局

高知河川国道事務所

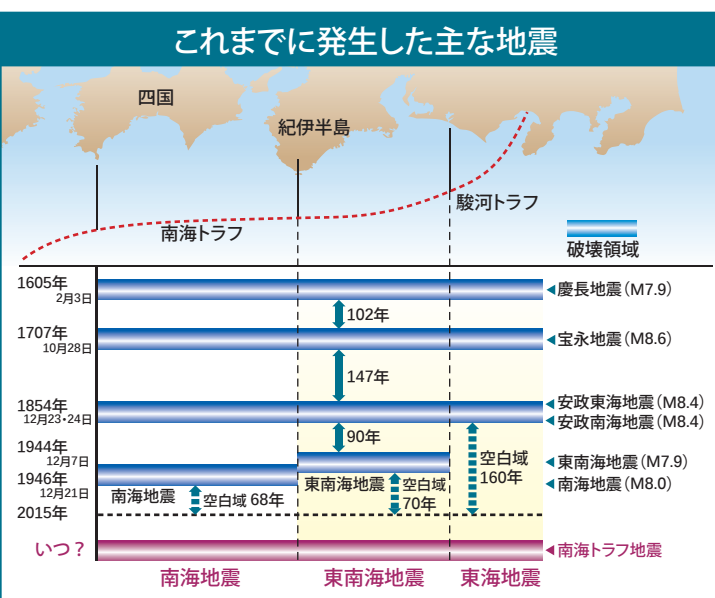
南海トラフを震源とした地震

南海トラフを震源とする地震は、今後30年以内の発生確率が約70%と予想されています。

明日発生するかもしれない「南海トラフを震源とする地震・津波」に対して、最前線で防御する海岸堤防の対策を早急に行う必要があります。

海岸堤防の対策としては、比較的発生頻度の高い津波に対して整備をし、津波が堤防を越えた場合でも、堤防の効果が粘り強く発揮出来るような整備を進めていきます。

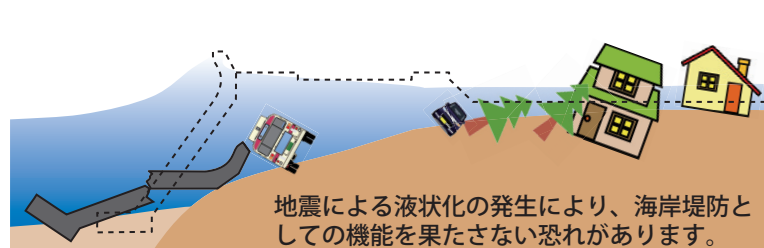
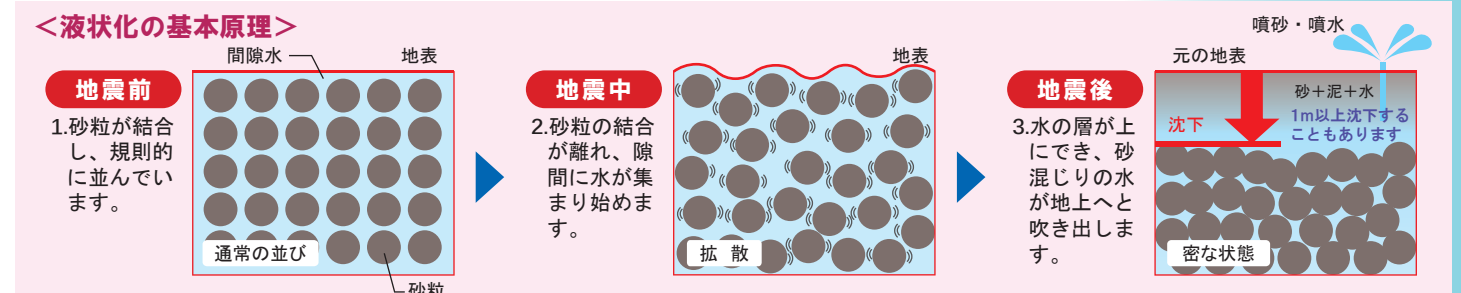
	津波のレベル	基本的な考え方
比較的発生頻度の高い津波	最大クラスに比べ発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波（数十年～百数十年の頻度）	海岸堤防等の海岸保全施設を整備します。対象の津波高を超えた場合でも、施設の効果が粘り強く発揮できるように整備を進めます。
最大クラスの津波	発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波	住民避難を軸に、ソフト・ハードの両面より、総合的な津波防災対策を進めます。



出典：内閣府 南海トラフの巨大地震モデル検討会第1回資料（一部加工）

液状化による海岸堤防としての機能低下

地震が発生すると、地中では振動により砂粒の結合が離れ、液状化現象が起こります。液状化が発生すると、海岸堤防の沈下および護岸の変形等が発生し、海岸堤防としての機能を果たさない恐れがあります。そのため地震後に襲来してくる津波により家屋等が浸水し、甚大な被害が予想されています。



出典：東北地方整備局

事業の概要

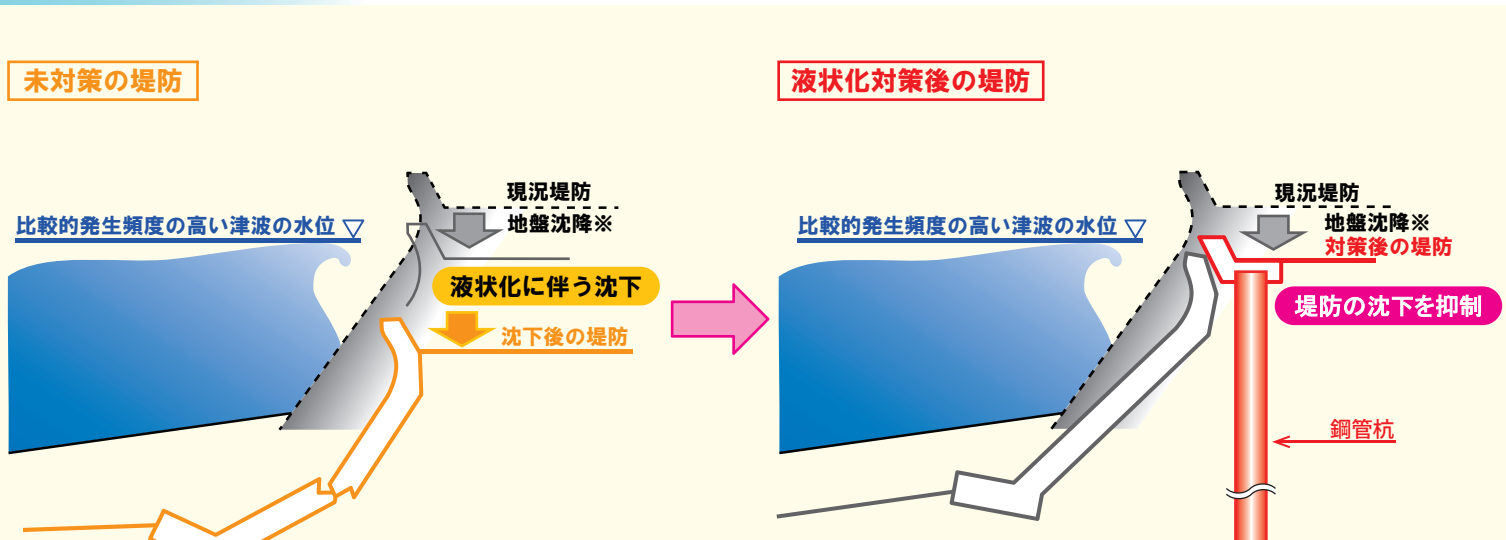
長浜・戸原工区では、南海トラフを震源とする地震・津波に対し、海岸堤防の耐震・液状化対策を行うことで堤防機能を保持し、津波による家屋等の浸水を防御します。



平成 26 年 1 月撮影

津波と堤防高の関係

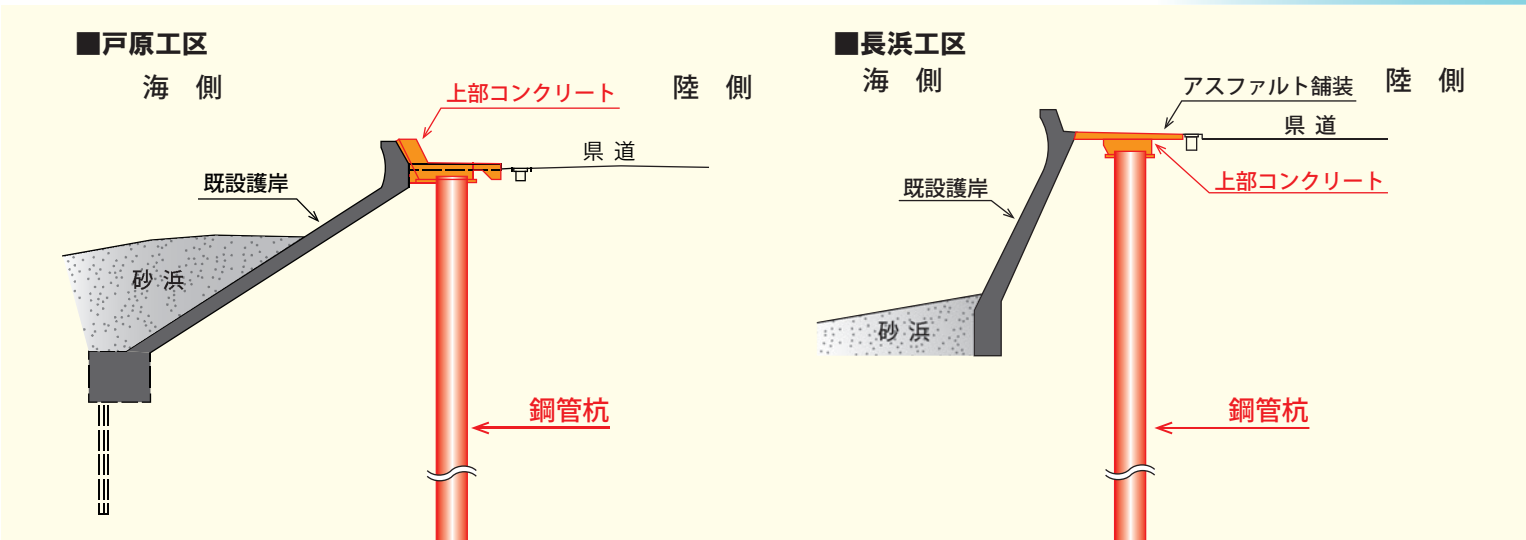
海岸堤防の液状化対策が未実施の場合は、地盤沈降+液状化による沈下のため、津波による浸水被害が発生しますが、液状化対策を実施した場合は、地盤沈降は発生するものの比較的発生頻度の高い津波による浸水を防御します。



※高知海岸を含む高知県中央部は、南海トラフ沖を震源とする地震により約2mの地盤沈降が想定されています。

対策工法<施工イメージ図>

長浜・戸原工区では、海側歩道の地中に、鋼管杭等を並べて設置し、液状化に伴う海岸堤防の沈下および変形を抑制します。



※対策工法は長浜・戸原工区の標準的な工法を示したものであり、部分的にこの工法と異なる区間もあります。